

昨年度の度数分布を用いて、
生徒の位置と合格可能性を確認

大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の結果が芳しくなかった生徒は、志望校判定の結果を見ると、自信を失いがちだが、判定だけで出願先を最終決定せずに、度数分布（図1）を用いて、生徒に自分の位置をしっかりと確認させることが重要だ。例えば、D判定だった場合、度数分布を確認して、自分がE判定に近いD判定なのか、C判定に近いD判定なのかを確認した上で、昨年度の入試で、自分と同じような位置から合格した受験生の数から、より詳細な合格可能性を生徒には把握させたい。

なお、今年度は、現行の学習指導要領に対応した初めての入試であり、共通テストの出題科目に「情報Ⅰ」が新設されるなど、昨年度と配点が変わっている募集単位が少なくない。度数分布の見方は従来と変わらないが、昨年度の志望者度数と昨年度の入試結果における合否度数分布については、今年度の配点に換算して表示されていることを認識しておきたい。

確認ツール

- 大学入学共通テスト自己採点集計データネット 2025（以下、データネット）サイト>度数分布マクロ
- Compass >判定シミュレーション>度数分布出力

図1 Compass 度数分布とその見方

上から		第1志望 ○○大 前（受験カード志望校）	
●傾斜集計による判定値（左からA B C D）		2025年	
●共通テストと個別学力検査の配点		基準 600 B 580 550 520	
●第1段階選抜での予告倍率、通過予想得点／配点		共テ：2次 1000 : 1400	
●一般選抜の募集人員、昨年実質倍率		1段階 倍（ / ）	
		定員 29 2024年度倍率 2.3	
データネット自己採点集計の志望者度数分布		2024年度	
左から		得点 今年 昨年 合格 不合	
●各募集単位の教科配点で集計した得点		640 18 37	
●判定値		630 26 41 1	
●今年度、昨年度の志望者度数（各日程内における第1志望を集計、表示は累積度数）		620 35 43 A 1	
		610 38 44 2	
		600 A 48 B 5 1	
		590 39 49 3 3	
		580 B 42 51 1 3	
		570 43 50 C 4 4	
		560 47 52 1 4	
		550 C 48 55 1 9	
		540 51 50 1	
		530 56 56 D 2	
		520 D 60 58 1	
		510 62 59 1	
		500 66 57 2	
上から		人数 112 61 26 32	
●今年度、昨年度それぞれの合計志望者数（各日程内における第1志望）		平均 533 644 703 650	
●今年度、昨年度の平均点及び得点率		得点率 53.3 64.4 70.3 65	
		対24年 -120 -111 +387 +51	

昨年度の入試結果における合否度数分布
左から

- 合否検証ライン（合格率が80%、60%、40%、20%と推定される位置にA B C Dを表示）を表示

※昨年度と配点が変わった場合は、今年度の配点に換算して表示。

※表示している画面はイメージ。

生徒への声かけ例

データネットの志望校判定がD判定となり、個別学力検査に向けて弱気になっている生徒に対して

D判定ではあるが、540点を取った君は、C判定に近いD判定だ。昨年度の入試結果における合否度数分布を確認すると、その位置付近からでも逆転合格した先輩は複数人いる。簡単ではないけれど、合格する可能性はあるから、諦めずに頑張ろう！



今号は、大学入学共通テストの結果を踏まえて出願先を検討する生徒に対して、どのような出願指導ツールを用いて、どのような声かけをするとういことといった出願指導のポイントを解説するとともに、今後の大学入試に向けた学校の課題を展望する。

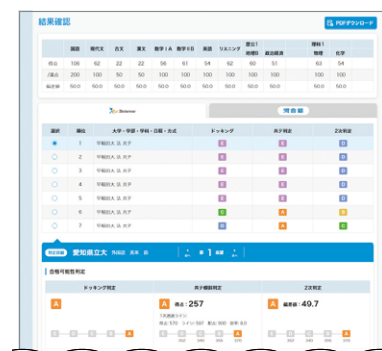
2025年度大学入試の出願指導ポイントと
今後の大学入試に向けて求められること

出願指導ポイント2 記述模試を基に、個別学力検査を踏まえた合格可能性を見極める

共通テストの得点が芳しくなかった生徒に対しては、ポイント1だけではなく、10月に受験した第2回ベネッセ・駿台記述模試の結果や現時点での自分の状況などを基に、個別学力検査等でどれだけ得点を伸ばせるかを予測したい。データネットの結果(図2)の2次判定には、第2回ベネッセ・駿台記述模試の結果が表示されているので、記述力の確認が可能だ。ドッキング判定では、第2回ベネッセ・駿台記述模試を個別学力検査と見なし、その結果と共通テストの結果を集計した判定も確認できる。

なお、志望校が2段階選抜の実施を予告している場合は、第1段階選抜予想ラインを超えていることを必ず確認しておきたい。

図2 データネットの結果確認画面



※表示している画面はイメージ。

確認ツール

- データネットサイト
- 模擬試験の個人成績票
- Compass など

生徒への声かけ例

データネットの志望校判定を見て、予定通りに第1志望の大学に出願するか、第2志望の大学に変更するか迷っている生徒に対して

どちらの大学の方が個別学力検査で自分の得意教科を生かせそうか、第2回ベネッセ・駿台記述模試の結果と現時点での自分の状況を基に一緒に検討しよう！

出願指導ポイント3 過去の合格者最低点から個別学力検査で必要な得点を逆算する

個別学力検査の目標設定の際の参考にしたいのが、過去の合格者最低点だ。合格者最低点から共通テストの得点を引き、個別学力検査で目指すべき得点を逆算する。

なお、昨年度までと配点が変わっている募集単位については、共通テストの得点を換算する必要がある点に注意したい。過去の合格者最低点に基づいた合格ラインを目標として設定させて、合格するための具体的な学習計画を立てることがポイントだ。

確認ツール

- Benesse High School Online

>大学入試データ>一般選抜>2024年度入試結果データ>入試結果データ集>国公立大私立大合格者最低点・平均点一覧

※収集ができた募集単位のみ掲載。

生徒への声かけ例

共通テストの結果を踏まえて、個別学力検査での目標得点率を確認しようとしている生徒に対して

君の志望大学・学部の前年度合格者最低点は790.5点。共通テストの配点や平均点変動を踏まえて、共通テストの得点を引くと、個別学力検査で186点が必要だ。個別学力検査で200点を目標としたら、目標得点率は64.5%。その数値を目標に、学習計画を立てよう！

データネットサイトのご案内

大学入学共通テスト自己採点集計サービスを基にした実際の分析結果や各種データは随時、データネットサイトにアップされる。実際の動向も参考にしながら、出願検討を行っていただきたい。

各動画・資料は下記2次元コード、もしくはURLより確認できます

- 全体概況 2025年1月23日(木) 9時公開予定 データネットサイトの「動向分析>全体概況」より確認。
※東京大学、京都大学、医学科などを分析した「難関大概況」も掲載。
<https://benesse-hs.jp/r5wvs>



動向分析

今年度の大学入学共通テストの全体概況ほか、大学ごとに動向データやトピックスをお届けいたします。

全体概況

難関大学動向

出願指導ポイント4 併願対象となる各募集単位の入試科目・配点などを確認

共通テストで特定の教科・科目の結果が芳しくなかった生徒については、併願対象となる各募集単位の入試科目・配点の確認を行うことが重要だ。例えば、横浜市立大学医学部看護学科の前期日程では、25年度入試から3教科型の選抜方式が設けられた。共通テストで1科目失敗してしまった看護学系統志望の生徒にとっては、進学先決定の優先事項次第で、同大学が出願先の選択肢の1つになるだろう。そうした入試科目・配点などの入試変更や共通テストの得点、得意科目などを踏まえて、出願先の検討を行いたい。

図3 入試科目・配点に変更があった募集単位例

大学・学部・学科（日程）	概要
横浜市立大 医・看護（前）	5教科を課す1方式の入試から、A方式（6教科）とB方式（3教科）の2方式での実施に変更する。 出願時の方式選択は不要で、6教科受験の場合は両方式で、3教科受験の場合はB方式のみで可否判定を受ける。

※ 24年12月までに収集した情報を基に編集部で作成。
※ 大学のホームページや募集要項等で最新の情報を必ず確認してください。

確認ツール

● Benesse High School Online > 大学入試データ > 一般選抜 > 2025年度入試情報 > 入試科目配点に特徴のある大学一覧



● 教育情報センター YouTube
<https://www.youtube.com/watch?v=fIMvMqpWcvw>



出願指導ポイント5 後期日程の廃止などに伴う出願動向の変化を確認

国公立大学の後期日程の縮小・廃止が続いており、25年度入試でも東京学芸大学や京都工芸繊維大学が後期日程を縮小する。例えば、京都工芸繊維大学の後期日程の受験予定者の多くが名古屋工業大学の後期日程に出願先を変更した場合は、名古屋工業大学の後期日程は例年よりも厳しい入試になることが予想される。後期日程の廃止や募集人員の変更は、併願対象となる大学の入試にも影響を与える可能性があるため、動向を確認した上で出願先を決定したい。

図4 募集人員に変更があった募集単位例

大学	詳細
東京学芸大	後期日程を153人→100人に縮小。 新たに総合型選抜（募集人員49人）を実施。
京都工芸繊維大	工芸科学部の一般プログラムで後期日程（74人）を廃止。 前期日程は334人→380人、総合型選抜は63人→67人、学校推薦型選抜は90人→114人に変更。

※ 24年12月までに収集した情報を基に編集部で作成。
※ 大学のホームページや募集要項等で最新の情報を必ず確認してください。

確認ツール

● Compass > 判定シミュレーション > 大学検索 > 志望校 AI サーチ (β)

生徒が記入している志望校の、「設置区分」「エリア」「学問系統」などの情報を基に、生徒の志望に合致しそうな志望校を判定ごとに「挑戦校」「現実校」「安全校」に分けて提示することが可能。



※ 表示している画面はイメージ。

● Benesse High School Online > 大学入試データ > 一般選抜 > 2025年度入試情報 > 入試変更点 > 入試変更点一覧



今後の大学入試に向けて学校に求められること

教育活動を精選しながら、生徒に伴走する担任の指導力を高める

大学入試が前倒しされる中、進路指導の方針が必要に

年内入試とも呼ばれる総合型選抜・学校推薦型選抜による入学者の割合が半数を超えたことから分かる通り、大学入試はスケジュールの前倒しが進んでいます。これまで3年生の1学期までに生徒の志望を固めるという学校が大半でしたが、最近は「2年生の3学期にいったん生徒に志望校を仮決めさせて、3年生の1学期に志望理由を磨き上げ



(株)ベネッセコーポレーション
学校カンパニー教育情報センター長
谷本祐一郎 たにもと・ゆういちろう

る」と、指導の前倒しを明言する教師も増えています。また、25年度入試から新たに東洋大学が、併願が可能な学力重視型の年内入試を12月初旬に実施し始めましたが、そうした入試方式の増加によって、入試学力の完成という面でも前倒しが進んでいます。

大学入試のスケジュールが前倒しされれば、教師にとっても、やるべきことが短い期間に集中することになります。当然、学校としては取り組みの精選が必要となりますが、そのためには、どんな資質・能力を持った生徒を、どのような教育活動を通じて育てていくのか、その成果を生徒の希望進路の実現にどうつなげていくかといった、学校として育みたい資質・能力を土台にした進路指導の方針が欠かせません。

各校では、スクール・ポリシーを踏まえた教育活動が展開されていますが、進路指導においても、生徒個々の資質・能力を見取り、適切に進路につなげてい

くことが求められます。例えば、進路指導部主催の進路検討会で配布する生徒把握の資料に、教科学力だけでなく、生徒の多面的な資質・能力や興味・関心、目指す進路に関する情報などを盛り込むことで、進路指導の方針が骨太なものになります。また、そうしたことによって、「この活動は、資質・能力の育成の点からも不可欠だ」と、取り組みの精選が進むでしょう。

探究学習と進路指導をつなげる内省の充実を

進路指導の方針を明確化する際には、探究学習を進路指導とどう関連づけるかも重要です。探究学習も進路指導も、生徒のキャリア形成を支援する点では同じですが、進路指導では主に目指す将来から選択すべき進路を逆算し、探究学習では現在の興味・関心を起点に今後取り組みたいことを積み上げていきます。生徒が自分の長所や生き方・あり方に気づく可能性があるのは、探究学習の実践の中です。探究学習は、未知の可能性、選択肢に出合える場ですから、進路指導と探究学習の両面からキャリアを考えることは、とても意味のあることです。

探究学習などの教育活動の中で自分の可能性に気づくためには、活動を内省する時間が必要不可欠です。しかし、今の生徒たちは経験の機会が多い一方で、内省の時間が少ないと思われます。自分で、あるいは他者と、じっくりと活動を内省する中でこそ、自分の経験と今、そして将来の目標を自分の言葉でつなげて語ることのできる「マイ・ストーリー」が育まれるのだと思います。

マイ・ストーリーの醸成には、生徒に最も近い存在の1人である担任の力が大きな影響を及ぼします。生徒のマイ・ストーリーの醸成を支援する面談の実現など、進路指導部を中心に、学校として担任の支援をどう行っていくのかも重要な課題です。さらに、マイ・ストーリーを醸成する場として探究学習は非常に有効ですが、探究学習を通して生徒と伴走する担任の資質・能力の向上も、進路指導の充実につながる課題と言えます。

近年、多くの先生方から「共通テストで好成績を収める生徒は、マイ・ストーリーを語ることができている」と伺います。進路指導と探究学習の両面からマイ・ストーリーの醸成を支援することは、年内入試だけでなく、一般選抜においても成果につながるはずです。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任